Staff Blog

園長室ブログ

カエルとザリガニと動物園

チンパジーの森はおかげさまで盛況のうちにオープン記念式典を終え、その後も多くの人たちに足を運んでいただいているところです。チンパンジーたちは広い放飼場やタワーでのびのびと遊び、室内観覧室では目の前のチンパンジーの迫力に圧倒された小さいお子さんが驚きの声をあげております（それ以上にお父さんお母さんが興奮）。新しいチンパンジーも2頭入り（そのうちの1頭はテレビでお馴染みパンくんのお母さん）まもなくこの群れに参加できそうです。

そうこうしているうちにすっかり梅雨も明け、同時にかみね動物園恒例のサマースクールも開かれいよいよ夏本番です。平成20年のかみねの夏は、これまた恒例、夜の動物園をはじめザリガニ釣りやおもしろ園内ガイドなど盛りだくさん。そのなかで今年取り組んだのが国際カエル年にあわせてのささやかな「身近なカエル展」。昔はたくさんいたカエルたちも数を減らし絶滅の危惧などと大げさなことを言わないまでも夏の夜、窓を開けて寝るとカエルの大合唱といった季節の風物詩が姿を消していくことは寂しい限りです。

生物多様性ということが最近盛んに言われるようになってきました。昨今の環境問題でも取り上げられることが多くなってきましたが、私たちの住む地球には赤道直下の熱帯雨林から極地帯まで様々な地域があり、それぞれにその地域の自然環境に応じた多くの生態系が存在します。そうした生態系に沿ってあるいは生態系とは無縁に、まさに無数ともいえる種が存在します。また、ひとつの種でも、私たちヒトにも多くの人種があるようにさらに同じ人種でもクローン人間でない限り、遺伝子レベルでの多様性があります。このように多種多様な生物が様々な環境で複雑に絡み時には干渉し時には依存しあいながら、この地球環境は程よく調和しバランスよく維持できているのです。しかし近年の環境破壊や温暖化により多くの動物・植物種が絶滅の危機に瀕しているという事実は、こうした生物多様性の危機でもあり、またそれは地球環境の危機でもあるということが言えます。動物園は教育の場でもあり環境を訴える場でもあるわけですから、環境サミットが開かれた平成20年、職員の中から自然発生的に「今年の夏はカエル展をやろう」という声が上がったのも（国際カエル年ということもありますが）まさにタイムリーな企画、と言えるでしょう。

そういうわけで職員があちこちの水田や沼などから捕まえてきて手作りのミニビオトープに放しました（展示が終わったらもといた環境へもどします）。展示するカエルを調べているうちにこれまでカエルの名前を間違えて覚えていたことに気がつきました。たとえば、トノサマガエルと思っていたのは正確にはトウキョウダルマガエル、イボガエルと思っていたのはツチガエル、逆にイボガエルと呼ばれるのはヒキガエル、アマガエルとアオガエルを混同していたこと（私だけか？）…などなど。まあ子どもの頃ですから見た目の印象でいい加減に覚えていたのでしょう。でも名前はともかく、よく虫かごに入れて飼っていたのを思い出します。ときどきハエを餌としてあげるのですが、死んだハエは食べないので掃除機でハエを吸い取りました。そこまではいいのですがそれを虫かごに入れるのがまた大変で。たぶん一旦ビニール袋に入れてからあげたような気がします。そんな夏の思い出、ってちょっと寂しいですね。

夏休みに入ってちびっ子たちが大勢きますが、動物見るより今ザリガニ釣りに夢中になっています。それはそれでいい。カエルでもザリガニでも夏しか見られないもの、夏しか体験で

きないもの、それらを生身の体で感じ取ってもらい、将来、環境を考えるちょっとしたきっかけになってくれたら動物園としては動物園冥利に尽きます。

平成20年7月26日　園長　生江信孝

ザリガニ太公望たち

ザリガニたち

手づくりミニビオトープ

アズマヒキガエル（水槽）

2008年7月26日

過去の一覧

令和6年

令和5年

令和4年

令和3年

令和2年

令和元年